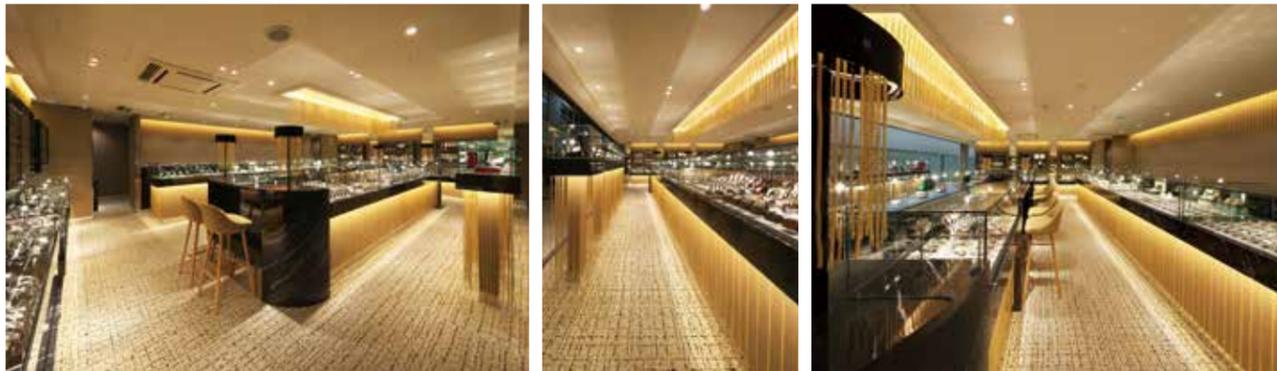


2枚共「きつしゃん 永楽町 松」の店内。右：扉を開けると、銀色の壁紙とヒノキの棧で囲われたアプローチが心地良いリズムを刻み、緊張感を解きほぐしながら期待感を膨らませていく。左：カウンターエリアは、日本の伝統芸能である「能」舞台を表現。本来の舞台なら絵で表現される松は、錫（スズ）を使用したレリーフで新たな価値を創造し、アイキャッチに



アンティーク時計の聖地として名高い東京・中野ブロードウェイの時計販売買取店「一風騎士（現 WATCHNIAN）」。ラグジュアリー&エレガントというクライアントの要望に沿って、シャンパンゴールドのメッシュチェーンを什器や天井に配し、高級感や統一感・安定感を与える贅沢な空間に。また、チェーンで縦のラインを強調することで、天井の低さを感じさせない効果も狙っている 撮影：山田誠良



お問い合わせ
 ●06-6586-6290
 ●住所／大阪市西区北堀江1-10-2 305
 ●営業時間／10:00~19:00
 ●定休日／土曜日・日曜日・祝日
 ●http://www.voiger.jp
 ●設計・監理エリア
 ・全国



※詳細につきましてはお問い合わせください



吉本 宗氏
 1980年奈良県生まれ。
 2005年株式会社グラマラス入社、森田恭通氏に師事。
 2009年VOIGER（ヴォイジャー）設立。国内外の専門誌やデザインサイトに掲載多数。専門誌「商店建築」では「次世代のデザイナー50」として紹介されている。2021年イタリアでデザイン賞を受賞



大阪・北新地の焼肉割烹「きつしゃん 永楽町 松」の外観 撮影：下村康典

ヴォイジャー VOIGER

クライアントのビジネス・商売の起爆剤になりたい

大阪を拠点に、飲食や物販店舗・クリニック・マンションの共用部などのインテリア設計デザインを手掛ける（VOIGER）。同社を統括する吉本宗氏のモチベーションは「クライアントのビジネス・商売の起爆剤になりたい」ということ。

デザインを手掛ける際には、じっくりとヒアリングを行い、クライアントが思い描くビジョンを把握する。そして、エンドユーザーの目線に立って「こんな店があったらいいなあ」を膨らませながら具現化していくことが、吉本氏のスタイルだ。このエンドユーザー目線が無いと、ただクライアントと作った趣味の店になってしまい、長続きはしない。クライアントのためだけのデザインではなく、クライアントのためにデザインがしたいと。

「印象」に残るデザインも特徴の一つ。印象に残れば他の誰かに教えたくなる。それが口コミとなって、良いスパイラルを生む。また、空間全体のバランスにも心を配る。空間を彩る要素として、デザインだけで満たすのではなく、店舗のスタッフやエンドユーザーを含めて100%になる空間を想定しデザインする。

デザイナーはアーティストではない、というのも吉本氏の考えで、「デザイナーが自分の好きなものを作るだけなら、自分のお金でやればいい。クライアントのお金でデザインさせていただくので、1円たりとも無駄にはできない」。それがブレないデザインに繋がる。

プロジェクトを進める上で、クライアントやデザイナーが一つのチームとなって、ワクワクできるような時間を過ごす。その空気が、エンドユーザーにも伝わる。吉本氏の理想の形だ。